

2 五十人山の動物

せるまでに回復してきている。登山者は、春のやわらかな陽射しを受けて、心地好い汗を浮かべながら、新緑の中を山頂部へと向かい、このツツジの群落とスズランの花を楽しむことになる。

山開き当日山頂では、葛尾村と都路村の主催により、「ミスすずらん」1名と「準ミスすずらん」2名が選ばれる。以前は登山者の投票で選ばれたこともあったが、現在は7人の審査員がこの任に当たっている。また、この3名をモデルにして撮影会が開かれ、フォト・コンテストも後日開催されている。



牧 場

山頂部はなだらかでバレーボールができるほど平坦部が広く、青年会の若い人達を中心に、いろいろなゲームが計画されており、山開きの日一日を楽しく過ごせるようになっている。

このような山頂部の特徴から、遠い昔、坂上田村麻呂が都からはるばる遠征して来たおりに、50人の武将を山頂に集めて軍議を開いたので「五十人山」と呼ばれるようになったという、ロマンに満ちた伝説が生まれたと考えられる。また、都から持ってきた木彫りの馬が姿を変えて、苦戦していた田村麻呂軍を勝利へと導いたとの言い伝えもあり、現在のこの時の馬が西隣の田村郡三春町に木彫りの三春駒として伝えられている。

馬に関しては、双葉郡の北に位置する相馬郡に、古くから「野馬追い」の祭事が伝えられており、阿武隈山地一帯には広く野生の馬が生息していたことが推察され、これも田村麻呂の伝説が生まれる一つの要因になっていたのではないだろうか。

当地域の主要産業はやはり農業であるが、第一次産業についている人の割合は、年々減少傾向にある。耕地面積では、水田が第一位となっているが、粗生産額では主として牛・豚による畜産の占める割合が高くなっている。馬とのかかわりでは、江戸時代に三春駒葛尾産名馬を産した記録があり、現在もアラブ競走馬を生産しているところもある。